

2022年(令和4年)度 星槎大学・大学院 学位記授与式 学長式辞

本日ここに、2022年(令和4)年度星槎大学・大学院 学位記授与式を挙げるに当たり、学位取得者の皆様、並びにご家族、ご関係者の皆様方に、本学を代表して、心からお慶びを申し上げます。

3年前に起こったコロナ禍もようやく収束の兆しを見せていますが、本年度の学位記授与式は、諸般の事情を鑑みて、3年連続でオンラインでの開催となりました。教員や学友と直接対面が叶わないまま修了となった方も多いかと存じますが、様々な困難を乗り越え今日を迎えた皆様には、学位を取得されたことをお祝いすると同時に、心から敬意を表したいと思ひます。

本年度、本学で学修し、めでたく学位を取得された方は、共生科学部133名、大学院教育学研究科教育学専攻修士課程22名、教育実践研究科専門職学位課程24名、そして2020年4月に開設された教育学研究科博士課程が2名、合わせ48名でございます。このうち、昨年の9月末に修了された方が学部は19名、大学院は教育学研究科修士課程が6名、教育実践研究科修士課程が4名、本年の3月に修了された方が学部は114名、大学院は10名です。その年齢層は70歳台から21歳までにわたり、平均年齢は学部が約35歳、教育学研究科が約48歳、教育実践研究科が約50歳です。また、住まいは、国内は北海道から沖縄まで多くの地域にまたがっており、さらに海外にお住まいの方もおられます。これは、本年度も年齢や地域などで幅広い方々が本学で学修されたことの証しだと思ひます。

さて、学位記授与式は英語でCommencementとも呼ばれています。もともと始まりという意味を持つCommencementが、なぜ学位記授与式という意味でも使われるかの理由は、学位記授与式が、大学で学修したことを新しい生活の始まりに繋(つな)げる記念すべき式を意味するからです。ですから皆さんにとって、今日は学びの終わりの日ではなく、本学で学び、身につけたことを、それぞれの現場で活かそうと努力することを始める日なのです。

では、本学のディプロマポリシー(学位授与の方針)は、どのようなことを期待しているのでしょうか。

本学共生科学部のディプロマポリシー(学位授与の方針)には、「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るといふ星槎の三つの約束の精神に則って共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つことなどの星槎共生スピリットを身につけたものに学位を授与します。」と記されております。そして、この星槎共生スピリットは、教育に関して

課題探求、問題解決を行い、「共生社会の創出に貢献していく」教育学研究科修士修了生や、教育課題の解決を目指し、現場において「優れた実践力・指導力」を発揮していくことを目指す教育実践研究科修了生にも、同様に期待されており、教育について研究した内容を「環境の改善へとつなぐ役割を積極的に担う」ことを求められる教育学研究科博士課程修了生でも、もちろん同様です。なお、ここでいう共生スピリットとは「困難にも屈せず共生をめざす強い意志」という意味でご理解ください。

現代社会全般を見渡すと、そのような星槎共生スピリットを発揮していくことは、確かに容易なことではないかもしれません。しかし逆に、それは困難だからこそ今一番必要とされているものだと思えます。では、その共生スピリットは具体的にどのようなものなのか、本学で皆様が横断的に学ばれた教育、福祉、自然環境、スポーツ、国際社会の各分野で考えてみましょう。

まず教育の分野での共生スピリットとは、何よりも「インクルーシブ教育」と「共感理解教育」のスピリットと関連します。それは、障がいがあるなしに関わらず、人間は一人ひとりが違うので、そのニーズに応え、一人ひとりの発達を合理的に促していくスピリット、また、他者の立場や気持ちにできるだけ身を置いて理解するスピリットです。それは、障がいのある方を弱者と一方的に決めつけ見下してしまう態度や、受験戦争に見られるような、大学を入学者の平均偏差値で評価しているような精神とは、全く異なるスピリットと言えましょう。

そして福祉の分野での共生スピリットとは、かつて宮沢賢治が「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と述べたような意味での、みんなの幸福、現代風の言葉で言えばみんなのウェルビーイングを願うスピリット、また、苦しんでいる他者にできる限り寄り添うスピリット、「困った時はお互い様」という心で互いに支え合うスピリットを意味します。それは、「勝ち組、負け組」で人間や社会をとらえるメンタリティとは正反対のものと言ってよいでしょう。

また、自然環境の分野での共生スピリットとは、自らが自然の一員であると自覚しつつ自然の恵みに感謝し、今さらされている地球生態系の危機を様々な角度で学び続けながら、その危機克服のために何らかの努力を重ねるようなスピリットを意味します。それは、自然の恵みを忘れ、自然環境を平気で破壊するような経済開発至上主義とは対極にあると言えるでしょう。

さて、今ちょうどワールド・ベースボール・クラシックが開催され、日本と戦ったチェコチームの態度などが話題になっていますが、スポーツの分野では、スポーツマンシップそのものを共生のスピリットと呼んでよいでしょう。それは、スポーツにおける相手に対する思いやりやリスペクト、フェアプレイの尊重、礼節の発揮などのマナーに現れます。

最後に国際社会の分野になりますが、皆様よくご存じのように、昨年来続くウクライナ戦争などにより、今の国際社会は分断化の一途をたどっております。しかしそうした危機的状況にあっても、共生という希望や共生スピリットを捨ててはなりません。1946年に創設されたユネスコ憲章の前文は、「戦争は、人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦（とりで）を築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致

があまりにしばしば戦争の原因になった。」と謳っており、世界平和実現を強く願い、自国とは違う文化や国々をできるだけ理解する努力こそが、国際分野における共生のスピリットだと私は固く信じている次第です。

皆様、どうかそのような共生のスピリットを社会で発揮してください。
そのような気持ちで臨む皆さんの今後のご活躍をお祈りし、学長としての式辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

2023年（令和5年）3月18日
星槎大学 学長
山脇直司